

南永田・山王台地区

第2期計画の振り返り（平成22～27年度）

☆明日を目指して、誰もが安心して暮らせる温かい街づくり

地域での交流をすすめるために・・・

【成果】

- ・地区社協広報紙に、地域で活動する福祉保健団体の記事を掲載し、各団体の活動内容が住民にもわかるようにしました。
- ・「ふれあいフェスティバル」を毎年開催し、地域で活動する団体が一緒になってイベントを盛り上げました。
- ・グラウンドゴルフ、ペタンク等のスポーツや陶芸教室を実施し、住民同士交流できる機会を多くもちました。



ふれあいフェスティバル

【今後に向けて】

- ・地域で活動する福祉保健団体の活動内容をさらに住民に理解してもらえるように、情報発信の方法を工夫します。
- ・新たな福祉保健団体も加わり、団体間の連携をさらに強めて、子どもから大人まで参加できるイベントを開催し、住民同士の交流を深めます。
- ・スポーツや趣味の教室等の行事は、より多くの住民に周知し、誰でも気軽に参加できるようにします。

要援護者支援のために・・・

【成果】

- ・「温かい街づくり研修会」を実施し、障害者や認知症等、毎年テーマを決めて、要援護者への理解を深めました。
- ・自治会町内会単位で認知症サポーター養成講座を展開し、認知症について学び、考える機会を多くもちました。
- ・「ふれあいフェスティバル」で、災害時要援護者支援事業をPRしました。



温かい街づくり研修会

【今後に向けて】

- ・より多くの住民に、高齢者や障害者等、要援護者の状況を知ってもらい、災害時に助けあえる地域にします。
- ・地域で実施している防災の取組について、住民にわかりやすく伝えます。

新たな担い手づくりのために・・・

【成果】

- ・子育てサロン「つくしんぼ」の担い手に、参加者でもある母親らが多く加わり、担い手が増えました。
- ・「温かい街づくり研修会」を通して、地域の見守りにつながる担い手の育成を図りました。
- ・高齢者食事サービス「すみれ会」の担い手が世代交代し、新たな体制で再出発しました。
- ・子どもたちが地域行事に参加することによって、子どもたちが地域とつながるきっかけをつくりました。



つくしんぼ

【今後に向けて】

- ・参加者が担い手になり、担い手も世代交代できるような工夫をしながら、取組を進めます。
- ・担い手を発掘し、育成する研修会等を積極的に実施し、新たな人材が地域活動に加わるよう取り組みます。
- ・男性や若い世代も地域の活動に関心をもち、地域を支える担い手になってもらえるように呼びかけます。

地域でのささえあいの充実のために・・・

【成果】

- ・子育てサロン「つくしんぼ」を開設し、親子が集える場所をつくりました。
- ・高齢者食事サービス「すみれ会」を通して、増えていく高齢者世帯を把握し、顔の見える関係をつくりました。
- ・自治会町内会単位で認知症サポーター養成講座を実施することで、地域全体で認知症への理解を深めました。
- ・「温かい街づくり研修会」を通して、近所同士の支えあいについて、自治会町内会を超えて考える機会をつくりました。



すみれ会

【今後に向けて】

- ・新たに転居してきた住民等にも地域の集う場所等を周知し、誰でも気軽に地域へ溶け込めるようにします。
- ・高齢者が身近な所で集える場所をつくります。
- ・地域で支えあうことの必要性を学べる機会をつくり、住民の支えあいの意識を高めます。
- ・地域の役員だけでなく、住民全体で支えあえる地域にします。

第3期計画（平成28～32年度）

地域の特徴

（データ＝平成26年9月末日現在）

地区西側は整然と区画された戸建て団地、地区東側は山裾と谷戸の地形に沿うように形成された市街地から成ります。

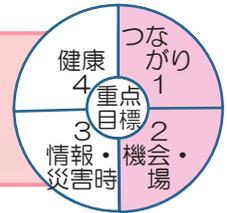
地区人口＝約7,200人
 年少人口比率＝11.7%
 高齢人口比率＝28.3%
 総世帯数＝約3,400世帯
 平均世帯規模＝約2.1人



明日を目指して、誰もが安心して暮らせる温かい街づくり

住民同士の交流を進めるために・・・

5年後の将来像：地域で活動する様々な福祉保健団体の活動に地域全体で協力し、住民同士の交流が活発化している。

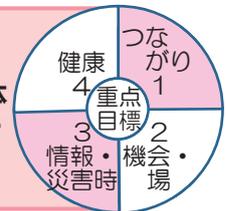


具体的な取組等

- ・地区社協広報紙に地域で活動する福祉保健団体を繰り返し掲載することで、住民の関心を高め、各団体の活動に多くの住民が参加し、協力できるようにします。
- ・「ふれあいフェスティバル」にこれまで参加していなかった福祉保健団体にも声をかけて、団体間の連携を一層強化します。
- ・「ふれあいフェスティバル」にて、地区社協の役割も積極的に周知します。
- ・地域の行事等は、自治会町内会の回覧や掲示、地区社協広報紙等を活用して、誰にでも伝わるように周知します。
- ・地域で生活する高齢者、障害児者、乳幼児等が気軽に参加できる行事等を実施し、住民間の交流がもっと図れるようにします。

災害時に備えた要援護者支援のために・・・

5年後の将来像：災害時に支援が必要な人の状況を日頃から地域全体で理解し、いざという時に助けあえる体制ができている。

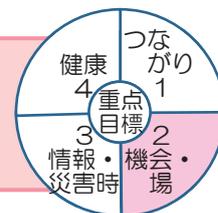


具体的な取組等

- ・「温かい街づくり研修会」を通して、様々な要援護者の状況を住民に伝えて、災害時に助けあえる体制をつくります。
- ・支援が必要な人の把握と近所同士の見守りの方法について、具体的に検討します。
- ・防災に関する情報を積極的に住民へ届けて、住民の防災意識を高めます。

新たな担い手を発掘し、育てるために・・・

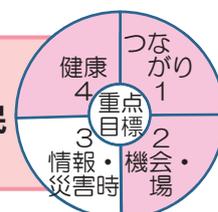
5年後の将来像：男性や若い世代も含めて、幅広い世代の担い手が地域で活発に活動している。

**具体的な取組等**

- ・子育てサロンの参加者にも声をかけて、担い手として少しずつ協力してもらえるように促します。
- ・子育てサロンの新しい担い手にも活躍の場を提供し、地域で活動することの喜びと自信を持ってもらうようにします。
- ・高齢者等も活躍できる場をつくり、幅広い世代から担い手を発掘します。
- ・「温かい街づくり研修会」を通して、地域の状況や課題を多くの住民に伝えて関心をもってもらい、地域を支える立場になってもらえるようにします。
- ・自治会町内会単位で認知症サポーター養成講座を繰り返し実施し、新たな担い手の発掘と育成を図ります。
- ・小学校や中学校と連携し、小中学生が地域の行事等に参加できる機会を増やし、将来の担い手が育つ地域にします。

地域の中でつながり、支えあうために・・・

5年後の将来像：気軽に集い、交流できる場所が身近に増えて、住民同士日頃から支えあえる関係ができている。

**具体的な取組等**

- ・地区社協広報紙等を活用し、地域で集える場所について、繰り返し住民向けに情報発信し、広く伝わるようにします。
- ・地域の行事やイベントにおいても、地域で集える場所を積極的にPRし、初めての人も参加できるように促します。
- ・身近な所で高齢者が集える場づくりの検討を進めます。
- ・「温かい街づくり研修会」等を通して、地域での支えあいをテーマに地域全体で考える機会をもちます。
- ・食事会に参加できない住民をどのように把握し、見守りを続けていくか、検討します。
- ・地域の見守りを行うボランティアグループの組織化に向けて検討します。
- ・高齢者等をはじめとした様々な世代の住民が、元気に交流できる健康づくりの活動を検討します。